

NO 35 2006・4

# JIMTEFレポート

JAPAN INTERNATIONAL  
MEDICAL TECHNOLOGY  
FOUNDATION



発行日 2006年4月1日 通巻第35号  
発行所 財団法人 国際医療技術交流財団  
〒100-0014 東京都千代田区永田町2-10-2  
永田町TBRビル1105  
電話：03-3502-5803 Fax：03-3502-5814  
e-mail:office@jimtef.or.jp  
ホームページ:http://www.jimtef.or.jp  
発行人 小西 恵一郎

## ご挨拶

団 長 小西 恵一郎



この度、本財団では私を団長といたしまして1982年に日本政府の無償資金協力によって施設が建てられましたタイ王国マヒドン大学アセアン保健開発研究所（AIHD）における第1回JIMTEF国際セミナーの開催とミャンマーへの調査団派遣を実施いたしましたので取り急ぎご報告申し上げます。

第1回JIMTEF国際セミナーはタイ王国の帰国研修員を新たなパートナーとし、同国を拠点とした日本-タイ共同による近隣諸国（ミャンマー、カンボジア、ラオス、ベトナムなど）の医療技術者を対象にした研修事業の実現のため、診療放射線技師国際協力協会、社団法人 日本臨床衛生検査技師会、AIHD、タイ王国放射線技師会、タイ王国臨床検査技師会の共催により、その最初のステップとして、近隣諸国がかかえる課題やその解決方法及び研修指導者に求められる技術や知識について研究討議することを目的に開催しました。

開催日は在タイ王国日本国大使館小林秀明特命全権大使と独立行政法人 国際協力機構（JICA）タイ事務所佐藤幹治所長にご祝辞を賜り、81人の参加者を得て活発な討議がなされ、新たな研修事業の実現に向け大きな一歩を進めることが出来ました。

ミャンマーへの調査団派遣につきましては、外務省からNGO（非政府組織）事業補助金を得て実施しましたもので、伝統医療、臨床検査、診療放射線の各分野における研修ニーズ及び新規事業案件の発掘を行いました。

なお、詳細につきましては来年度早々に報告書を発行致しますので、本レポートでは割愛させていただきますことを何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、今回のセミナーの開催・調査団派遣の実施にあたり、格段のご協力を賜りました外務省大臣官房・経済協力局はじめ在タイ王国日本国大使館、在ミャンマー連邦日本国大使館ならびに独立行政法人 国際協力機構、JICAタイ事務所、JICAミャンマー事務所、日本-ミャンマー人材開発センターの関係各位に厚く御礼申し上げます。

## 第1回JIMTEF国際セミナーを開催しました

JIMTEF常務理事

小崎 繁 昭

本財団では、「第1回 JIMTEF国際セミナー」を、2006年2月11日にタイ王国マヒドン大学アセアン保健開発研究所（ASEAN Institute of Health Development : AIHD）におきまして、日本臨床衛生検査技師会、診療放射線技師国際協力協会、タイ王国臨床検査技師会、タイ王国放射線技師会及びAIHDの協力の下、81人の参加を得て盛大に開催致しました。

タイ王国は、アセアンの主要国であるとともにアセアンの中心部に位置し、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムと接し、日本国とも600年にも及ぶ長い交流の歴史を持っております。近年は、経済面において強い相互依存関係にあることから、各界の本セミナーに寄せる期待も大きく、在タイ王国日本国大使館小林秀明特命全権大使と、JICAタイ事務所佐藤幹治所長のご臨席を仰ぎ、盛大に開催された意義は誠に大きいと存じております。

JIMTEFはこれまでアジア地域から多くの研修員を受け入れていますが、中でもタイ王国が一番多く、89人の帰国研修員がおります。特に臨床検査技師は35人、診療放射線技師は21人に上り、多くの成果を上げているとの高い評価をいただいております。

一方で、帰国後の研修員は、言葉や通信事情等により、日本の研修員受け入れ機関の指導者と十分なコミュニケーションが取られていないことが多く、日本で研修した高度な医療技術や知識が十分に生かされていないのではないかと懸念もあります。

本セミナーでは、タイ王国臨床検査技師会より、近隣諸国の技師への技術指導に力を入れはじめているということが報告されました。JIMTEFが提案しておりますタイ王国を拠点に近隣諸国を対象とした日本—タイ共同研修事業は、タイ王国の技師会の方針とも合致していました。

タイ王国を重要なパートナーとしてJIMTEFがリーダーシップを発揮し、第2回、第3回の国際セミナーを開催することにより、詳細な情報交換と指導技術を共有し、これらが今後の効率的で質の高いトレーニングに結びつき、目に見える国際貢献が図れるものと期待しています。

ご指導とご協力をいただきました日本、タイ両国の関係者の皆様に、衷心より御礼申し上げます。



開会挨拶をする小崎常務理事



全体会議の会場風景

# 第1回 JIMTEF国際セミナー

医療技術者による国際協力の展開に向けて  
(臨床検査技術と診療放射線技術について)

2006年2月11日  
プログラムスケジュール

9:30-10:00	開会挨拶：小崎 繁昭 (財) 国際医療技術交流財団 常務理事	
10:00-10:15	祝辞：佐藤 幹治 JICAタイ事務所長	
10:15-11:00	特別講演：ジユムロオン ミカノルン マヒドン大学アセアン保健開発研究所 シニアアドバイザー 演題：アセアン保健人材育成にかかるイニシアチブ 座長：久住 佳三 診療放射線技師国際協力協会 会長	
11:00-12:00	基調講演：小西 恵一郎 (財) 国際医療技術交流財団 常務理事 演題：国際セミナーの意義—日・タイ共同研修事業を目指して— 座長：アンバイ ウライヴェロ ムッチャナコオルン JICA帰国研修員	
12:00-13:00	昼 食	
13:00-13:05	祝辞：小林 秀明 在タイ王国日本国大使館 特命全権大使	
13:10-16:30	<p>■ 診療放射線部会 パネルディスカッション テーマ：国際協力のパートナーシップ —近隣諸国への技術移転— 座長：勝田 稔三 岡山大学大学院保健学研究科 助教授 診療放射線技師</p> <p>基調講演： ・松尾 雅基 診療放射線技師国際協力協会 副会長 ・サラ ウボルチャイ タイ王国放射線技師会 会長</p> <p>パネリスト： ・坂下 恵治 (社) 大阪府放射線技師会 常務理事 国際交流委員長 ・近藤 麻理 アムダ医療コーディネーター 岡山大学医学部保健学科 助教授 看護師 ・ラダア カラエイキツイ JICA帰国研修員 ・タラチップ ナトウォン JICA帰国研修員</p>	<p>■ 臨床検査部会 パネルディスカッション テーマ：国際協力のパートナーシップ —近隣諸国への技術移転— 座長：小沼 利光 (社) 日本臨床衛生検査技師会 副会長</p> <p>基調講演： ・ヴィラポーン プラチャヤシクル タイ王国臨床検査技師会 会長 ・設楽 政次 立正佼成会附属佼成病院 臨床検査科科长 臨床検査技師 ・三澤 成毅 順天堂大学医学部附属順天堂医院 臨床検査技師</p> <p>パネリスト： ・菅本 鉄広 JICA青年海外協力隊員 カンボジア、臨床検査技師 ・ソムチャイ ビリヤユダコオルン タイ王国臨床検査技師会 前会長</p>
16:40-17:45	<p>総括討議 座長 仲座 良造 (財) 国際医療技術交流財団 専門家 診療放射線技師 団長 小西 恵一郎 (財) 国際医療技術交流財団 常務理事 診療放射線部会座長 勝田 稔三 岡山大学大学院保健学研究科 助教授 診療放射線技師 臨床検査部会座長 小沼 利光 (社) 日本臨床衛生検査技師会 副会長 サラ ウボルチャイ タイ王国放射線技師会 会長 ヴィラポーン プラチャヤシクル タイ王国臨床検査技師会 会長 シリクル イサラヌルン マヒドン大学アセアン保健開発研究所 所長 近藤 麻理 アムダ医療コーディネーター 岡山大学医学部保健学科 助教授 看護師</p>	
17:45-18:15	閉会挨拶：久住 佳三 診療放射線技師国際協力協会 会長	

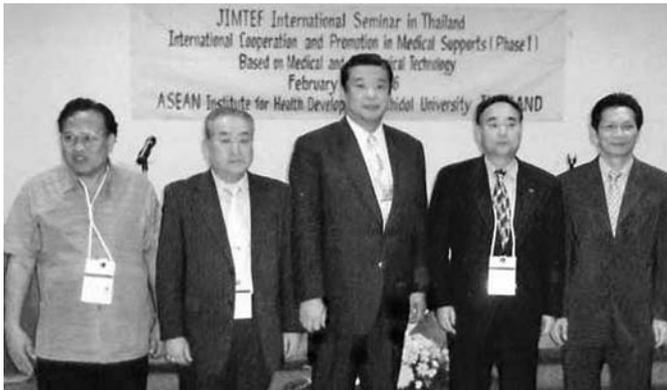
総合司会：仲座 良造 (財) 国際医療技術交流財団 専門家 診療放射線技師

## 第1回JIMTEF国際セミナーの経過報告

JIMTEF評議員

久住佳三

財団法人 国際医療技術交流財団（JIMTEF）主催により、2006年2月11日（土曜日）にタイ王国のマヒドン大学アセアン保健開発研究所（AIHD）で第1回国際セミナー：医療技術者による国際協力の展開に向けて（診療放射線技術と臨床検査技術について）を開催いたしました。



左よりサラ会長、久住会長、小西団長、小崎会長、ヴィラポン会長

本セミナーはタイ王国の帰国研修員を新たなパートナーとして、同国を拠点に日本・タイ共同による近隣諸国の医療技術者を対象にした研修事業の実現に向け、近隣諸国がかかえる課題やその解決方法および研修指導者に求められる技術や知識について研修討議する事を目的としています。

プログラムとしては午前9時30分に小崎繁昭常務理事の開会挨拶で開始されました。佐藤幹治JICAタイ事務所長の祝辞があり、特別講演がマヒドン大学アセアン保健開発研究所シニアアドバイザーのジュムロオン ミカノルン博士により“アセアン保健人材育成にかかるイニシアチブ”の演題で行われ、座長を小生とシリクルイサラヌルンAIHD所長で努めました。その後、小西恵一郎常務理事の基調講演があり、午前中のセミナーは修了しました。昼食後、小林秀明在タイ王国日本国特命全権大使の祝辞があり、診療放射線部会と臨床検査部会の分科会が始まりました。

診療放射線部会では基調講演が松尾雅基診療放射線技師国際協力協会副会長とサラ ウボルチアイ・タイ王国放射線技師会会長の両氏により行われた後、パネルディスカッションが行われました。



基調講演中の松尾氏

パネリストとして坂下恵治(社)大阪府放射線技師会常務理事・国際交流委員長、近藤麻理アムダ医療コーディネーター・岡山大学医学部保健学科・助教授、ラダカラエイキット、ラタチップ ナタウォン両JICA帰国研修員にお願いし、活発な討議が行われました。



午後のパネルディスカッションのパネラー  
左からラダ氏、タラチップ氏、坂下氏、近藤氏



診療放射線部会の会場風景

また、臨床検査部会ではヴィラポーン プラチャシツクル・タイ王国臨床検査技師会会長、設楽政次立正佼成会附属佼成病院臨床検査科科长、三澤成毅順天堂大学医学部附属順天堂医院主任技師の3氏による基調講演の後、パネルディスカッションが行われ、活発な討議が交わされました。



基調講演中のヴィラポーン氏



臨床検査部会の会場風景



総括討論の演者：左より勝田氏、小沼氏、小西氏、近藤氏、シリクル氏の各氏

その後、一同は合流し、総括討議に入り、活発な議論がなされ、午後6時に閉会の挨拶を小生が行いました。



閉会挨拶をする久住JIMTEF評議員

閉会後は学生食堂にて全体の懇親パーティーを行いました。最後になりましたがAIHDの皆様のご尽力に深く感謝し、小生の報告とします。

### 指導者養成コースの設立（タイ王国近隣諸国への技術指導のタイ人専門家の養成）

タイ王国近隣諸国（ミャンマー、カンボジア、ラオス、ベトナムなど）への技術指導を行うタイ人専門家養成のための指導者養成コースであるトレーナーズ・トレーニング・コースの必要性については、日本－タイ共同研修事業での目的を達成するためにも、日本での本コースの立ち上げに関して検討します。

### 日本－タイ共同研修事業（南西アジア・東南アジアへの技術移転）準備委員会の設立

上記コースを修了したタイ王国の医療技術者（基本的にJIMTEF, JICA帰国研修員）は日本－タイ共同研修事業の指導的役割を担うことになります。

今後、これらの計画を遂行して行くために、JIMTEF、診療放射線技師国際協力協会、(社)日本臨床衛生検査技師会、タイ王国放射線技師会、タイ王国臨床検査技師会、AIHDから各3人の代表を委員として本事業立ち上げに向けての準備委員会を組織し、検討して行く方向であります。

## ■ミャンマー調査団報告（派遣期間：2006年2月12日～2月18日）

## ミャンマーの伝統医療の現状

社団法人 日本柔道整復師会 副会長

阪本 武司

ミャンマーにおける伝統医療は、アーユルヴェーダと中国医学の大系を引き継ぎ、同時にチベット医学の伝統も受け継いでいるとされています。

現在、ミャンマー政府は保健省に伝統医療局をおき、伝統医療の活用および研究開発に力を注いでいます。また、伝統医療の技術者として伝統医療師の制度を設け、後述するようにマンダレーに伝統医療大学を設立し伝統医療師を養成しています。

伝統医療のサービス面では、保健省の管轄下で伝統医療による治療を提供する機関として、全国に3カ所（ヤンゴン、マンダレー、パセイン）の伝統医療病院と194の診療所が整備されています。

伝統医療の施術者としては、国に認定された伝統医療師の他に「パレバ」と呼ばれる民間伝承による治療師が治療活動を行っています。

## ヤンゴン伝統医療病院

1980年に16床の病院として設立され、その後、2000年に50床に増床されて現在に至っています。医療スタッフとしては院長1人、副院長1人の他に伝統医療師31人、看護師16人がおり、伝統物理療法、接骨、神経、小児、外傷の各領域における治療が行われています。主な疾患は神経筋障害（主に片側まひ等）、リウマチ、小児疾患、一般外傷です。



ヤンゴン伝統医療病院

## 伝統医療大学：マンダレー

2001年に設立されたミャンマー唯一の伝統医

療大学。敷地内には博物館や附属病院が設置されています。1学年の学生数は175人で、1・2年次にミャンマー語、バリー語、物理学、植物学、動物学、解剖学、微生物学、薬学等の基礎的な講義カリキュラムを受講し、3・4年次で、伝統医学総論、薬学、接骨、外傷、小児、婦人の六部門を履修します。また、社会開発、法律、中国鍼等も履修します。



伝統医療大学

## 接骨治療

前述の通り、ミャンマーの伝統医療は接骨を治療領域としており、マンダレーにおいては、78人の伝統医療師が接骨を専門科として開業しているとのことです。副子固定の実技を見た限りでは、一定の教育水準を感じました。また、前述した民間伝承治療師である「パレバ」も接骨を行っています。

副子固定の実演  
被験者は畑川団員

## ミャンマーの臨床検査の現状

JIMTEF理事

森 三樹雄

2005年度JIMTEF調査団の一員として、ミャンマーの臨床検査分野を調査しました。ミャンマーの保健衛生上の問題は、医療技術スタッフが非常に不足している点にあります。こうした中で、JICAミャンマー事務所の活動は、人道的支援が中心となり、妊婦の栄養不足の解消、妊産婦死亡率や乳児死亡率の改善、予防接種事業の強化、感染症(エイズ、結核、マラリア、ハンセン病)対策、母と子のプライマリーヘルスケアなどが実施され成果を上げています。



JICAミャンマー事務所での討論

ミャンマーの課題は、マラリア、エイズ、結核、デング出血熱、ハンセン病、麻疹などで、これらの感染症に迅速に対応し流行を防ぐことです。マラリアは、2000年には602,883例でしたが、多剤耐性のマラリア病原虫が増えているため、早期発見、早期治療が必要となっています。結核は人口の1.5%が毎年感染し、9万人が発病しています。結核対策としては、1歳以下の小児全員にBCGの接種、抗結核剤投与はDOTS法\*で行っています。2004年のエイズ感染者は34万人、ハンセン病患者は26万人と報告され、これらの対策が必要となっています。

東ヤンゴン総合病院の臨床検査部について

報告しますと、この病院は、200床で、入院患者1日160~200人、外来患者1日150~170人です。診療科は内科、外科、小児科、産婦人科、麻酔科、理学療法科、放射線科、病理検査科、リハビリ科の9科目です。病理検査科には、病理医1人、臨床検査技師1人、テクニシャン5人、事務員2人と小規模です。検査室は、血液検査、輸血検査、寄生虫検査、細菌検査、病理・細胞診室、血清検査などに分かれています。化学検査室には自動分析機器はなく、大半の検査は用手法で細々と行っています。血液ガス検査はバンスライク法という古い方法で実施しています。2006年1月の1カ月間の検査件数は、血糖121件、尿素窒素207件、電解質104件、エイズ142件、B型肝炎ウイルス抗原121件、梅毒検査12件、ABO式輸血465件、RhD式136件、喀痰中の結核菌染色49件、グラム染色66件、尿培養13件、喀痰培養15件、感受性検査33件などとなりました。

今後のミャンマーにおける医療面での改善と発展を期待しています。

※DOTS (Directly Observed Treatment Short Course)  
世界保健機構 (WHO) が考案した結核の標準的治療方式で、薬を患者に手渡さず、毎日外来に通ってもらい、職員の目の前で服薬させる。



東ヤンゴン総合病院の臨床検査部のスタッフ

## ミャンマーの診療放射線技術の現状

診療放射線技師国際協力協会 理事

畑川政勝

在ミャンマー日本国大使館、JICAミャンマー事務所、アムダ、ミャンマー政府保健省、医科大学、医療機関を訪問して、ミャンマー国内における医療事情を調査しました。

放射線機器はCT（コンピューター断層撮影装置）が全国で4台、MRI（磁気共鳴断層装置）が4台であり、それ以外に民間病院でも設置されているが台数は不明とのことでした。先進国に比較し圧倒的に少ない台数です。

放射線技師は3つのグレードに分かれ、一番上級はRadiological Technologistと呼ばれています。以下Radiographer Grade 1とGrade 2があります。全体の人数は全国で約600人です。また、JICA、JIMTEFなどにより日本で研修を受けた放射線技師は数人おり役立っているとのことでした。

### 東ヤンゴン総合病院

ヤンゴン市内に位置する中堅クラスの病院で年間230万人の患者が来ています。院長、担当者と面談し、現状を調査しました。

放射線技師数は3人で内1人がJIMTEFで研修を受けています。放射線機器は単純撮影装置（島津製500mA）が1台のみ、X線フィルムを使用し手現像を行っています。撮影枚数は胸部が80%以上を占め他は腹部や四肢などです。CTやMRIはなく透視装置もないので、複雑な検査はしていませんが、まれにバリウムを飲んでの検査は行っています。

その他、超音波診断装置が2台（東芝、ソノエス社）あり、放射線科医が使用しています。



JIMTEF帰国研修員から説明を受ける

### マンダレー医科大学

ミャンマー内の4つの医科大学の1つであり学長より全体の説明を受けました。

医師だけでなくメディカルテクノロジスト（4年制教育）の分野もあり、放射線技術教育については、基礎物理など基礎から一般撮影、CT、MRI、乳房撮影、歯科撮影、透視検査などの教育を行っています。核医学や放射線治療の教育は行っていませんでした。

### マンダレー総合病院

マンダレーの中核病院でありマンダレー医科大学の附属病院的存在です。担当者と面談し施設を見学しました。

放射線技師は17人（女性7人）。内2人が日本で研修を受けています。放射線機器はCT、MRI、血管造影装置、透視装置、単純撮影装置、乳房撮影装置など揃っています。メンテナンスについてはCT、MRIはメーカーのエンジニア、一般撮影装置については院内のエンジニアが行っています。

検査内容は各種ありますが、バイクや自転車事故でのX線撮影も多いとのことでした。



撮影時に家族3人で患者を固定している

### まとめ

放射線機器は高額でありほとんど普及していません。また電力事情も悪く停電が非常に多く、大病院は自家発電で対応しているものの、コンピュータ系の機器には良い環境ではない状況です。

国内において技師の横のつながりが少ないように感じました。日本で研修を受けた技師が、地域もしくはもっと広い範囲でネットワークをつくるなど研修の成果を活用できるような工夫が必要であります。

## 第14回 国際医療協力学生セミナーのご報告

独立行政法人 日本学生支援機構との共催で、2005年12月17日～18日にかけてJICA国際協力総合研修所を会場に本セミナーを開催しました。

日本人学生をはじめ韓国、ケニア、コスタリカ、スリランカ、中国、フィジー、フィリピン、ブラジル、ミャンマー、モンゴルからの留学生、計33人（日本人学生16人、留学生17人）が参加しました。

参加者には、1泊2日の合宿研修で講義やディスカッションを通じ、国際医療協力についての理解と、日本人学生と留学生の相互理解を深めていただくことができました。

本セミナー後も参加いただいた学生同士の交流が続き、参加者の今後の国際協力への足掛かりになれば、主催者として望外の喜びです。



講師、アドバイザー、司会を務めていただきました方々にこの場をお借りいたしまして厚くお礼申し上げます。

### <プログラム>

#### 【第1日目】

オリエンテーション 理事 森 三樹雄

講義「ミレニアム開発目標と感染症対策」

・講師：神戸大学医学部附属医学医療国際交流センター 教授 川端 真人

講義「カンボジア医療技術プロジェクト」

・講師：国際医療福祉大学保健学部放射線・情報科学科 助教授 金場 敏憲

#### 【第2日目】

「災害時の海外援助活動の実際」

・講師：独立行政法人 国際協力機構（JICA）国際緊急援助隊 事務局長 浅野 寿夫

・講師：岡山大学医学部保健学科 助教授・AMDA 医療コーディネーター 近藤 麻理

・アドバイザー：JIMTEFシニアアドバイザー

水田 加代子

・司会：常務理事 全田 浩

理事 森 三樹雄

「グループ討議／発表と総括」

## 「仏語圏アフリカ臨床検査技術コース」準備研修が行われました

独立行政法人 国際協力機構（JICA）は2006年1月24日～2月7日の期間、JIMTEFを研修委託機関、JIMTEF医療関連職種24団体協議会構成メンバーの近畿臨床検査技師会を研修実施機関とする仏語圏アフリカ臨床検査技術コース（2006年8月下旬開始予定）の研修カリキュラム設定に係る協議のため下記の六カ国より関係者11人を招聘し、標記準備研修を実施いたしました。

対象国および人数	
国名	人数
セネガル	2
ブルキナ・ファソ	2
マリ	2
ベナン	2
ニジェール	1
ギニア	2
合計	11



JIMTEFオリエンテーション  
中央：佐藤重和外務省経済協力局長

## 研修員受け入れ機関への感謝状の贈呈

JICAより委託を受け実施しております「臨床検査技術」集団研修コースにおきまして、2月3日、長年にわたり研修員を受け入れ実習のご指導をいただきました機関に、JICA東京国際センターより感謝状が贈呈されました。

また、すでに昨年12月に「病院薬学」コースの研修員受け入れ機関に感謝状の贈呈がありましたが、新たに表彰規定を満たした横浜市立みなと赤十字病院に対し、感謝状が贈呈されました。



なお、「医療スタッフ練成コース」につきましても、所管のJICA兵庫より、多年にわたり研修員を受け入れ顕著なご功績があった機関に、感謝状が贈呈されることになっております。

感謝状が贈呈されました機関をご紹介させていただきます。

国家公務員共済組合連合会 東京共済病院、社会福祉法人 三井記念病院、社団法人 全国社会保険協会連合会 社会保険中央総合病院、順天堂大学医学部附属

順天堂医院、駿河台日本大学病院、聖マリアンナ医科大学病院、帝京大学、東京医療生活協同組合中野総合病院、東京大学医学部附属病院、日本医科大学付属病院、日本大学医学部附属板橋病院、横浜市立みなと赤十字病院、立正佼成会附属佼成病院（50音順）

## 賛助会員へのご加入とご寄附のお願い

JIMTEFは、基本財産の運用と個人、団体・企業からの貴重な賛助会費及び寄附金の収入により運営されております。ひとりでも多くの方々に、開発途上国への医療協力活動の意義をご理解いただき、暖かいご支援をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

なお、本財団は特定公益増進法人の認定を受けておりますので、賛助会費及び寄附金は税法上の優遇措置の対象となります。

### ■賛助会員の種類

- |         |            |     |               |
|---------|------------|-----|---------------|
| ○特別賛助会員 | (対象：企業・団体) | 年会費 | 100,000円 (1口) |
| ○個人正会員  | (対象：個人)    | 年会費 | 10,000円 (1口)  |
| ○個人準会員  | (対象：学生等個人) | 年会費 | 2,000円 (1口)   |

お申し込みは、JIMTEF事務局までお問い合わせください。

財団法人 国際医療技術交流財団

〒100-0014 千代田区永田町2-10-2 永田町TERビル 1105

電話：03-3502-5803 FAX：03-3502-5814 e-mail:office@jimtef.or.jp

ホームページ：http://www.jimtef.or.jp

皆様のご芳志が、開発途上国の医療技術と医療サービスの向上に役立てられます。